

**さまざまな体験を通して 育つ力**

10月16日～17日、5年生は「山・海・島」体験活動に行ってきました。家庭を離れて自分たちだけで生活、宿泊する中で「玉ねぎを切ったら涙が出た！」「ご飯を炊くのってこんなに大変なの」等といった声も聞かれ、改めて家族の温かさやありがたさを感じられたのではないかと思います。

厚労省・文科省の調査で「小学校での体験活動の機会は『自尊感情』や『チャレンジ精神』『困難に負けない力』等の育成にプラスの効果がある」ということが分かったそうです。これは、宿泊体験に限らず、体験活動全般に当てはまるそうです。

学校や地域、PTA等で行われているさまざまな活動によって、子供達がより良く将来を生き抜く力が育成され、成長につながっています。

**5年生「山・海・島」体験活動**

キャンプファイヤーで



自分達で作ったカレー「おいしい！」



みんないい笑顔です

21日（土）には、午前中にPTA環境整備作業、夕方にはCSまなび部会の星空観察会が行われました。どちらにも多くの保護者及び児童の皆さんの参加がありました。

環境整備では、おかげ様で校舎内がピカピカ！大変きれいになりました。星空観察では、科学クラブの児童が焦点を合わせてくれた望遠鏡で、月のクレーターや土星の輪等がはっきりと見られ、大人も子供も感激でした。どちらの会でも参加者及び役員・関係の皆さん、お世話になりました。ありがとうございました。

**星空観察会****環境整備作業**

## 今年もたくさんの雑巾をいただきました

国府小では、毎年地域の老人会から雑巾をいただいています。今年も、老人会連合会会長の久保さんと中田さんにご来校いただき、雑巾の贈呈式を行いました。全校児童の前で久保さんからお話をしていただき、学校からは6年生の栗原君が「地域の方からこんなにたくさんの雑巾をいただき、とてもありがたいです。この雑巾でしっかり掃除をします。」とお礼の言葉を伝えました。

今回いただいた雑巾は何百枚もあり、これから学校の掃除時間にしっかり使わせていただいて学校をきれいにしていきたいと思います。

老人会の皆様、たくさんの雑巾をありがとうございました。

心より感謝申し上げます。



日本では、学校教育の中で「掃除」が重視されています。外国の学校では子どもが掃除をする習慣はないそうです。仏教に「床を磨くことは自分の心を磨くこと」という教えがあるそうですが、日本で掃除が大切にされるのは「心を鍛える」といった教育的な意味もあるからなのでしょう。加えて、学校では、一人ではできない広い場所を集団で協力して

清掃します。使用する道具や担当する場所等、役割や分担によって友だちと協働するといった社会性も養われます。

職員室の前の廊下は、毎日1年2組の児童数人が雑巾で拭いてくれています。汗をかきながらいつも一生懸命に拭き掃除をしており、頑張ろう、協力しようとする心が育っています。



## 今月の「地域の達人」紹介

写真撮影 森本 文雄さん(稲荷木)



今回の達人の森本さんは、写真撮影歴、なんと50年以上だそうです。これまで撮影された写真の中から、子供達が喜びそうな乗物や動物、キャラクター等の写真を選んでいただきました。